

フレンドリー

FRIENDLY



令和元年度を振り返って



就学前外国人児童日本語等指導事業(北幼稚園)



神輿体験in十万石まつり



中学生ベルギー・ナミュール市派遣



親子で楽しむ世界の子どものおそび



日本文化講座(和服体験)



小・中学生中国・邯鄲市派遣



高校生アメリカ・オレゴン州派遣



中国・邯鄲市学生訪問団受入(興文中学校)

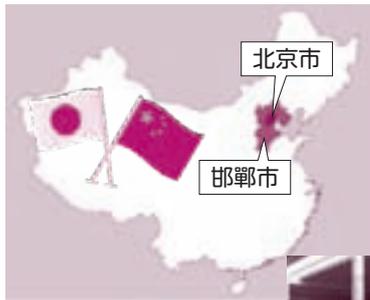
No.89
2020
MARCH

第10回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣

(7/28(日)~8/2(金) 小・中学生6人、引率者3人)

日程表

7/28	中国へ出発、天安門・故宮博物館見学
7/29	頤和園、動物園の見学、 列車にて邯鄲へ、叢台公園見学、 歓迎レセプション
7/30	邯鄲市博物館見学、学校訪問、 ホームビジット
7/31	太極拳体験、広府城見学、 中国書道体験、餃子作り体験
8/1	列車にて北京へ、万里の長城
8/2	帰国



◀邯鄲駅にて



邯鄲市

太極拳体験



奥田 涼太
(西小学校6年)

空手にはあまりない左右の動きが多く、腕を伸ばしたり向きを変えたりする動きもたくさんあり、動きも大きかったです。また、スピードがゆっくりで、空手よりもかえって難しいと感じました。太極拳は防ぎよの拳だと聞いてびっくりしました。空手に慣れている僕にとっては動きが難しかったです。言葉や交通ルール、食事の仕方など、いろいろな違いがありましたが、僕はずっと、空手と太極拳のように、「日本も中国も両方ともいいな。」と感じていました。日本の友達に太極拳のことを伝えて、少しでもたくさんの人に、中国に興味をもってもらいたいです。



1200年前の橋は今も使われています



書道体験・餃子作り



清水 もも
(西小学校6年)

習字体験では、劉文架先生に細かい所を教えてもらいながら、毛筆で書きました。

餃子作りでは、みんなで中国の餃子を作りました。

中国の餃子は、日本と違って水餃子です。日本では主にスーパーなどで買った皮を使いますが、中国では皮も手作りで、厚めの皮です。その皮に餡とえびを詰めます。それを茹でて完成です。美味しかったです。



▲劉先生と一緒に書いた故事成語



▲餃子作りの体験

思い出がたくさん 学校訪問&ホームビジット



斉藤 夢岩
(江並中学校1年)

3日目には、河北工程大学附属小学校の皆さんとの交流会がありました。僕は日本の遊びを中国語で紹介する役です。紹介すると、意味がよく伝わったのか、にこにこしながら見てくれました。とても嬉しかったです。僕の中国語と、仲間の身振り手振りで、コミュニケーションがうまくとれて、日本のよさをしっかりと伝え合うことができたと思っています。研修派遣の6日間は、僕にとって大変だったけれど、楽しく大きな自信となりました。今後も機会があれば、日本と中国をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。



▲河北工程大学附属小学校訪問と交流会



劉さん姉弟



長谷川 舞英
(宇留生小学校5年)

研修でとても心に残った邯鄲市のホームビジットでは、中国語が分からなくても、少し英語を使ったり、ジェスチャーを使ったりして、ホストファミリーのみんなと交流することができました。邯鄲のショッピングモールにも連れて行ってもらい、夕食に、中国の海鮮料理を食べさせてもらいました。とてもおいしかったです。劉さんは私にとって、一生忘れられない初めての中国の友達です。



北京市

天安門・故宮博物館見学



中村 心俐
(南小学校6年)

天安門という名称は「天上の平和の門」という意味にも取れますが、満州語の名称は「天命を受けて安定した(平和な)国を治める」という意味であり、それを省略した形が「天安門」と考えられるそうです。構造は、5つの通路を穿った城壁の上に木造の楼閣が建てられていて、中国の代表的な城門建築であるそうです。楼閣の中は現在、中国政府要人が諸行事の際に天安門に立つときの前後に休憩をとるための椅子やソファが置かれているとのことでした。



▲天安門広場



松村 智嘉
(西小学校6年)

万里の長城

万里の長城は、攻めて来た敵を防ぐための堀みみたいな建物です。紀元前214年前から造られた、とても古い建物です。そして、宇宙から肉眼で見える唯一の建物です。そのくらい、丈夫で大きい建物がすべて人の手で造られたそうです。

私は、今の時代の機械や技術を使っても、これだけ大きな建物は造れないと思いました。そして、万里の長城は山から山へと建物がつながっていて、見渡す限り、永遠に続くような壮大さに感動しました。



▲万里の長城



▲万里の長城・八達嶺にて

研修を終えて

長谷川 舞英

今回の研修を通して、毎日少しずつ成長することができたと感じたのは主に3つあります。1つ目は、大事な時にすばやく気持ちの切りかえができるようになったことです。2つ目は、研修の日がたつにつれて、中国語がたくさん使えるようになったことです。3つ目は、たくさんの人の前で堂々と発表できたことです。今回の研修での3つの成長をこれからの生活や学習などにつなげていけるようにしたいです。



▲邯鄲への電車の中で

奥田 涼太

日本の友達に太極拳のことを伝えて、少しでもたくさんの人に、中国に興味をもってもらいたいと思っています。そして、今回の訪問では、大垣市の小中学校5人の仲間は空港で、ホテルで、訪問先で、いつも僕を助けてくれました。派遣研修を通して、深く心が通じたこの仲間のことを、僕は忘れません。



何百年前のお城と
現代の建物とコラボ

清水 もも

中国に行って得たものは、1つ目が仲間との絆です。2つ目が現地の人との交流です。3つ目が中国の知識です。まず中国では、道路が広くて車は右側通行です。次に、中国の料理は、日本と違って油を多く使う料理が多く、濃い味付けでした。そして、中国の建物は、大きくて歴史がある建物がたくさんありました。中国の人の優しさや、写真では感じられないスケールの大きさなど、現地に行かないと味わうことのできない事がたくさんありました。



▲歓迎会にて

中村 心俐

日本にいてテレビなどから得る情報だと中国の人達は短気なイメージがあったけれど、その考えは全く変わりました。学校訪問で出会った中国の友達はとても温かく、そして優しい人ばかりでした。これから自分は、何事にもまず自分から取り組んでいき、情報をそのまま信じて思い込むのではなく、自分で実際に見て・会って・感じることを大切にしていきたいと思いました。

松村 智嘉

私はこの6日間という短い期間の中で、今まで知らなかったことを知ったり、中国の暮らしや歴史を五感で感じる事ができました。たとえば、故宮を目で見たり、料理を口で味わったり、鼻で嗅いだり、万里の長城を手で触ったり、中国の歌を耳で聞いたりしました。自分にとってはこれまでにない最高の体験になりました。

斉藤 夢岩

僕は中国語が話せることを生かして、5人の仲間と中国の人達を言葉でつなぐことをずっと続けました。その結果、中国のよさと、日本のよさをしっかりと伝え合うことができたと思っています。日本に帰って部活動をしている時に、「斉藤さん、中国の研修派遣で、いろいろな所で通訳をして活躍したそうだね。」と、先生にほめられてとてもうれしく、誇りに思いました。



団長
片山 誠吾
(牧田小学校校長)

6人も派遣団の一人として、研修を通して成長した自分を自覚し、学んだことを生かして活躍していることと思っています。そして将来、大垣市と邯鄲市の架け橋となって活躍していくことを期待しています。



総務兼通訳
野村 勇介
(綾里小学校教諭)

子どもたちが成長したなと感じたことは、大きく3つあります。まず、新しいことに対する積極性です。次に、見通しをもつことです。最後に、周りへの気遣いです。人の温かさや気持ちを感じることができるようになるのは、周りのことを見ようとしているからで、とても素敵なことだと感じました。



総務兼通訳
松原 玉林
(国際交流協会職員)

様々な交流の中でも、かけがえのない思い出の一つは前回なかったホームビジットです。団員は各家庭のプログラムによって半日のホームビジットがあったという間に終わりました。別れに際しては、「もっと遊びたかった」と口々に別れを惜しんでいました。とても充実したひと時に見えました。

第8回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣

(9/21(土)~9/28(土) 中学生8人、引率者3人)

日程表

9/21	ベルギーへ出発 ホストファミリーと対面
9/22	ホームステイプログラム
9/23	チャンピオン中高一貫校訪問
9/24	IATA中高一貫校訪問、ナミュール市表敬訪問、市内見学
9/25	リエージュ、さよならパーティー
9/26	ホストファミリーとお別れし、ブリュージュへ
9/27	ワーターロー、ブリュッセル訪問、夜日本へ向けて出発
9/28	帰国



▲ナミュールの街並み



表敬訪問・市内見学



牧 真奈美
(東中学校2年)

ナミュール市表敬訪問では、ナミュール市長に直接お会いすることができました。驚いたことは、市長がとてもフレンドリーだということです。とても気さくな方で、お話の中にジョークを混ぜたりしていて、とても面白く、そして楽しく聞くことができました。

Bonjour!!
(こんにちは)



▲市長さん(中央)と記念撮影



▲ナミュール市庁舎



▲丘の上が、ナミュール城砦

ナミュール市内は、とても古い建物がたくさんありました。窓ガラスの面積が小さい家ほど古い家だそうです。例えば、この写真の真ん中の建物のように窓ガラスの小さな建物は13世紀のものだそうです。中世の時代は、ガラスが高価だったため、大きな窓を作ることができなかったと聞きました。



▲矢印の所が13世紀の建物

チャンピオン中高一貫校訪問



渡部 藍花
(興文中学校2年)

一緒に英語の授業をしました。まず驚いたのが、毎回の授業で指定の椅子がないことです。日本と同じ普通の椅子に座っている人もいれば、ソファーに座っている人も。中には小さい本棚に座っている人もいました(笑)。

みんなとてもフレンドリーで、たくさん声をかけてもらいました。ベルギーの人たちはとても英語の能力が高く、全く言葉の壁を感じないほど会話が弾みました。

何にしようかな?



▲カフェテリアにて



▲お城のような校舎



▲英語授業で、ベルギーのことを教えてもらいました



ワア!! おいしそう

▲チョコレート作り



▲校内を案内してもらいました



▲美術の授業を一緒に受けました

こんなにたくさんの生徒が発表を聞いてくれたよ!!



▲大垣紹介プレゼンテーション、書道、合唱の披露

学校内の施設について英語で説明してくれました。ゆっくりと話してくれるのですが、聞き取るのが難しかったです。しかし、ジェスチャーや簡単な英単語などで、どの教室が何をやる場所なのか分かりました。私とベルギーの生徒では英語を習い始めた年は同じです。しかし、英語の理解度には大きな差がありました。きっとそれは私の学習意欲が少ないからだと思いました。また、ベルギーの生徒はどんなことに対しても前向きに取り組んでいるからだだと思います。これからはどんなことに対しても今まで以上にやる気を持ち、前向きな気持ちで何事にも取り組んでいきます。



安田 実央
(江並中学校3年)

イアタ IATA中高一貫校訪問

日本でいう専門学校のような学校で、中学1年生から高校3年生までの約1,900人が28の分野に分かれて勉強しています。写真学科では、撮影スタジオで照明を使ったりして写真撮影をし、撮影した写真をパソコンで編集したりしていました。1人づつ写真を撮ってもらいました。生徒の人たちに角度や動きを指示されてモデルの気分になりました。小学校で将来自分の進みたい道を決め、中学校から1つのことに真剣に取り組んでいる自分たちと年代の人たちがたくさんいることを知りました。



大橋 一仁
(西部中学校2年)

みんなの顔写真は、
撮影してもらったものです!!



▲写真学科の生徒さんに
撮影してもらいました

時計学科。とても細かい
作業をしていたよ。



ワートルローとブリュッセル

最終日にはブリュッセルを観光しました。グランプラスと小便小僧を見に行きました。期待を裏切らない美しさと迫力がありました。ベルギーの建物は100年や200年は経っている歴史的建造物が多くありました。まるで、中世のヨーロッパにタイムスリップしたようでとても楽しかったです。

ワートルロー古戦場とはナポレオンの最後の戦いの場です。ライオンの丘から風景を見ると当時の、戦いの様子が想像できます。41mある丘の頂きから見た景色は、私の人生三大絶景に入ります。



▲世界遺産グラン・プラス



久世 南実
(星和中学校2年)



▲ワートルロー古戦場、ライオンの丘と頂上のライオン



ホストファミリーとの思い出

みんな、とてもフレンドリーで、会った時から大好きになりました。2日目は朝ごはんはワッフルを作って食べました。しかも大量に。全部とてもおいしかったです。3日目は学校訪問の後に、折り紙を教えてあげました。鶴や兜を教えると、「イエーイ!!」という感じで、すごく喜んでくれました。折り紙を通して、たくさんコミュニケーションをとることができ、自信ができました。5日目は、ホストファミリーと過ごす最後の日。たくさん話をしたりけん玉や習字をしたりしました。私はみんなの名前を漢字で書いてあげました。たったの5日間で家族になれたことが本当に幸せでした。「必ずもう一度会いに行こう」と心に決めました。

この短い間でコミュニケーションをとり、様々なことに挑戦することができました。自分に自信が持てるようになりました。この派遣事業にチャレンジして良かったです。



篠原 和香菜
(星和中学校2年)



▲私のホストファミリー



▲ホストファミリーとのお別れ



みんなで白玉団子
食べました!!

対面式で「こんにちは、はじめまして」と温かく歓迎してくれて私のために用意してくださった部屋には「SONA」と飾り付けがありました。家ではクッキーをみんなで作りました。普段したことのない私に親切に教えてくれました。私もここで日本のスイーツを紹介したくて白玉団子を作ることにしました。失敗…水の分量を間違えてしまったようです。でも、お土産であげたお箸でおいしいと言って食べてくれました。ほっとしたと同時にホストファミリーとの距離がぐっと近づいたことを感じました。家族と別れる朝、「また、ベルギーにおいで。これからも連絡を取り合おう」と言われて涙が出ました。私には第2のふるさと、家族ができたのです。



伊藤 蒼夏
(江並中学校3年)

さよならパーティー(チャンピオン中高一貫校のカフェテリアにて)

パーティーでは、大垣の紹介をしました。最後の合唱ではホストファミリーにお世話になったことを思い出しながら心を込めて伝えるように気持ちを込めて歌いました。その後は、みんなで夜ご飯をおいしくいただきました。自分のホストブラザーとはもちろん、他のメンバーのホストシスターなどとも積極的に話し、全員で仲良く食事をしました。けん玉を教え合ったり、みんなで写真を撮り合ったりして、最高の思い出になる時間を過ごせました。お別れということを考えてとても悲しくつらかったですが、ホストファミリーと過ごした日々は忘れられないものになりました。



伊東 輝
(東中学校2年)



▲書道を披露。みんな興味深く
見てくれました。

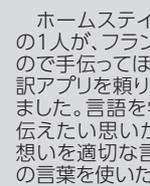


おいしかったベルギー風
ミートボール



団長 田辺 美樹
(北中学校校長)

ホストファミリーと共に食事をしたり、ホストブラザー・シスターと遊んだり、日本を説明したり登下校を共にしたりする中で、みるみるコミュニケーションが取れるようになる子どもたちの柔軟性には驚かされた。団員が、「ベルギーが好き」「また帰ってくる」「来年、待っているよ」等と口にするのが、目的を果たしたしるしだと感じている。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

ホームステイが最後となった日の夜、生徒の1人が、フランス語でメッセージを書きたいので手伝ってほしいと私に頼みにきました。翻訳アプリを頼りにして、メッセージを完成させました。言語を学ぶ一番のモチベーションは、伝えたい思いがあるということです。本当の想いを適切な言葉で伝えたいからこそ、相手の言葉を使いたいと感じるのだと思います。



総務 松岡 篤志
(江並中学校教諭)

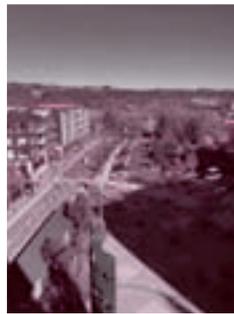
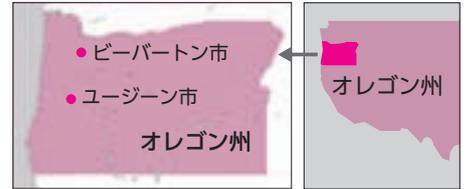
交流というのは滞在している間だけでなく、その後もずっと継続できるものです。8人の中学生にも交流をぜひ継続してもらいたいと強く思います。多くの人に支えられて繋がってきた交流をこれからも大切に、そして今回の経験や感謝を次の交流に繋げていくことが、私たちの使命に感じます。

第4回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

(10/10(木)~10/18(金) 高校生10人、引率者3人)

日程表

10/10	出発 到着後、ビーバートン市訪問 (市役所、警察署)
10/11	ユージーン市へ移動 ユージーン市訪問 (市役所、オレゴン大学、市内散策)
10/12、10/13	ホームステイプログラム
10/14、10/15	高校訪問
10/16	マルトノマの滝、ポートランド、ホームパーティー
10/17	オレゴンを出発し、日本へ帰国
10/18	到着



▲ビーバートン市長室からの眺め



▲自然に囲まれたユージーン市

Beaverton ビーバートン市



中井 まや
(大垣日本大学高校2年)

気さくに話しかけて
くださったドイル市長

ビーバートン市は商業都市として有名で、NIKEの本社やIT企業関連の会社が多く立地しています。

最初に警察署を訪問しました。実際に手錠をかけられてパトカーに乗せられました。私が思っていたよりも椅子が硬く、ラムさんに理由を聞くと、犯罪者は血がついて汚れていることもあり、掃除しやすいように硬いプラスチック素材になっているそうです。

市役所では、デニー・ドイル市長が温かく迎えてくれました。日本からのプレゼントを渡した時には、とてもうれしそうにしてくれて、見ている私達までうれしくなりました。



▲日本語が堪能な警察官のラムさん

Eugene ユージーン市



桑原 桃花
(大垣日本大学高校2年)

自然が豊かなながらも、アメリカらしさがたくさん表れていました。監視カメラの近くに看板があり「Smile!!」と記してあったのは、日本と違ってとても面白いと感じました。私が特に心惹かれたのは、「ウォールアート」です。街中には、アートが施されている壁がたくさんありました。どれも手が込んでいて感動しました。

街中に世界中のアーティストの
壁画アートがあったよ



▲学生数約19,000人のオレゴン大学



▲ルーシー・ヴィニス市長(中央女性)。目指していく理想像について話してくださいました

Portland ポートランド



▲ポートランドの中心部とレンタル自転車サービス



ポートランドではダウンタウンに行きました。どの建物もきれいで高く、いわゆる都会でした。しかし、日本と大きく異なり、あちらこちらに多くのオレンジ色の自転車が思ったことが印象的でした。「BIKETOWN」と呼ばれるサービスで、環境を守るために、温室効果ガスを排出しない交通手段として、大変安価で自転車が借りられるものでした。環境への意識が日本より強く見られ、見習うべき姿がありました。



鶴田 勇貴
(大垣北高校2年)

街で見かけたリス



▲ハロウィーンの飾り付け



高橋 拓海
(大垣北高校2年)

アメリカの生活環境と文化

中心から少し外れた住宅街では道路が蛇行したくさん坂があり、独特な家の並びが印象的だった。リスや七面鳥が道路を横切る様子があったりと日本との大きな違いを感じる事が出来た。ハロウィーンに近い時期だったため、多くの家が家の装飾をしていた。とても手が込んでいて、楽しそうな雰囲気だった。

アメリカは多民族の国でいろいろな人種が見られるためかどこを訪れても異国の私たちをすぐに受け入れてくれた。アメリカ人は積極的に私たちにすぐ興味を持ってくれたので、コミュニケーションがとりやすく、とても助かったと感じた。

高校訪問

【サウスユージーン高校】日本のように朝のリスニングやホームルームがあるわけではなく、1限目の授業から慌ただしい1日がスタートする。まず驚いたのは、タイムスケジュールの微妙さである。1限目は8:30~9:42、2限目は9:47~といった微妙な時間割になっていた。ホストシスターによるスクールツアーもサプライズの連続だった。アートクラス専攻の生徒による立派すぎる壁画。校内に広がるアウトドアクラスの緑の基地。体育館とは別に存在する本格的なトレーニングジム。高校内に設置された幼保園。生徒一人ひとりのカリキュラムと成績を管理する現代的システム…など。どこを見ても目新しいものばかりで楽しい探検だった。



小竹 若菜
(大垣北高校2年)

微妙な時間割のスケジュール

	MONDAY - THURSDAY
1st class	8:30 - 9:42
2nd class	9:47 - 10:59



▲学校生活についてのプレゼンをしました。



生徒が描いた壁画



▲英語と日本語でグループ交流



杉野 紗世
(大垣北高校1年)

【チャーチル高校】授業が始まると、最大の衝撃を受けた。授業中の生徒の行動が自由すぎたからだ。普通に授業を受けている生徒もいたが、お菓子を食べている人、スマホを触っている人、イヤホンをつけて音楽を聴いている人などがいた。しかし、決して授業をさぼっている様子はなかった。みんな、1人1台与えられたパソコンを使って、自分に合ったペースで学習していた。自由の国と呼ばれるアメリカだからこそ、そのような状況でも授業が成立しているのだと思った。午後は、日本語クラスを受けた。みんな熱心に授業を受けていて、なんだか嬉しかった。積極的に多言語を学ぼうとする姿勢は私たちが見習うべきものだった。

【シエルダン高校日本語クラス】日本語1年生、2年生、3年生クラスで計4回、大垣、日本についてのプレゼンテーションを行った。日本語クラスの生徒たちは全員、英語の名前とは別に日本語の名前を持っていた。日本では英語クラスで英語の名前を決めることはしないので、教育の仕方に違いを感じ、興味深いと感じた。授業の終盤には、オレゴンの生徒数名と大垣のメンバー1人がグループになり、日本語と英語を使って交流した。日本のアニメや日本食、日本とアメリカの違いについて。母国語が日本語でない人にどのように伝えるのかや、私に分からない英語があったときにどのように対処するのかなど、言語や文化が違う人とコミュニケーションの取り方を学ぶことができた。



山崎 末朝
(大垣東高校2年)

ホームステイ&研修の学び

週末には自然やショッピングを楽しんだ。広大な土地にまっすぐに伸びた木がたくさんあって獣道のような道を進んでいった先に滝があった。行くまではとてもハードだったけど、すれ違う人たちとおしゃべりをするのがとても楽しかった。岐阜とは比べものにならないくらいの規模と、野生の動物も多く、全身で自然を堪能できた。この研修で、現地に入り込むことでしか得られない発見や学びが沢山あった。



▲私のホストファミリー



大野 安友梨
(大垣北高校1年)



▲ホストシスターと一緒に



高木 結那
(大垣北高校2年)

私の価値観が変わったことが2つある。1つ目は家族愛の強さだ。家族そろって朝食、夕食を食べ、その日あった面白いことや、友達の話、たわいもない話を家族みんなでする。夜はテレビを見たり、みんなで話しあったり、とにかく家族の時間を大切にしていた。男女間で家事の押し付けがなく、手が空いている人が行うといった助け合う姿に感動した。2つ目は、豊かな生活、日々を送っていることだ。上下関係がほとんどなく、ほとんどの人が定時に家に帰り、家族との時間をゆっくり過ごす。その分、朝7時30分から仕事を始めたあたりなど朝を有効活用し、効率的に仕事を終わらせる。休日は家族で旅行やショッピングなど、日々を豊かに過ごしていると感じた。一度きりの人生。自分の生活を改めて振り返り、考えるとても良い機会になった。



澤 はる香
(大垣北高校2年)



▲お世話になったホストファミリー

この研修を支えていただいている多くの人との出会いがありました。長年ご尽力くださっている小沢先生。WINGの30年の歩みとその出会いを縁にしたティーパーティー。ホームパーティーを開いてくださる、かつて大垣を訪問された学生家族との出会いと心温まる歓待を通じて、おもてなしの文化は、万国共通の心遣いなのだと感じ、長年継続された歴史が今回の研修に脈々とつながっていると実感しました。



団長 高木 昭胤
(国際交流協会事務局長)



総務 岩村 愛子
(WING役員)

今回の生徒たちは素晴らしいチームワークで、病気や事故もなく、全員が無事に帰ってこられたこと、団の目標「全員で支え合いたくさんのことを学び経験し、思い出となる研修にしよう!」が達成されたことに感謝しています。今後も更にオレゴン州との友好関係を深めながら、この貴重な体験が生かされることを願っています。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

団員の多くは6月にオレゴンから大垣を訪問した高校生のホストファミリーとして、日本で既に交流に関わっていました。オレゴンでの交流を通して、生涯の友にも出会えたのではないかと思います。相互交流の成果があったように感じます。「また絶対に会いに行きたい」という生徒の言葉、そして涙のお別れから感じました。言葉、文化などが違っても心は通じ合うものだと思います。

地域日本語教育シンポジウムin大垣

2/9(日) スイトピアセンター スイトピアホール

日本国内の人口は減少傾向にあり、外国人が新たな労働力として期待され、平成31年4月には特定技能という新しい在留資格ができました。また、令和元年6月には「日本語教育推進法」が成立し、国として外国人への日本語教育に取り組んでいくことが明確になり、外国人の日本語をとりまく環境が変わってきています。

大垣市には、5,621人(令和2年1月末)の外国人が在住し増加傾向にあります。約20年前から実施している当協会の日本語学習支援では、令和2年1月末現在、140人以上の外国人市民が日本語の学習をしています。

そこで、「今、そしてこれからの地域の日本語教室の現場に求められていること」を考えるシンポジウムを実施し、当協会でも活動しているボランティアの皆さんや県内の日本語教室関係者の方々など、85人が参加されました。

国内の日本語教育の動向



▲文化庁国語課専門職
北村 祐人氏

在留外国人は約273万人(平成30年末)で、日本語学習者は過去最高の約26万人となりました。文化庁では、外国人の誰しもが持つ「生活者としての外国人」という側面に着目し取り組んでいます。外国人の受け入れを拡大する新しい在留資格が創設されたことに伴う「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」のもと、体制の整備、日本語能力のレベルを判定する基準の作成、人材の確保などが最近の動きです。

地域の日本語教育の先進的事例を蓄積し、広域的に広げていく日本語教育環境を整備する支援、そのためには人の確保・質の向上が不可欠で、日本語教師の資格化に向けての動きや、日本語教師だけでなく、コーディネーターや支援者など日本語教育に関わる多様な人材の役割の整理、日本語教師の経験による段階を示したことも最近の動きの主要なところ。その他、生活基盤を形成するために必要なことをまとめたカリキュラム案の作成、日本語教室のない地域に日本語教室を作る取組など、日本語教育が進むように幅広い施策を展開しています。

日本語教室がどうしてもできない地域の人にも日本語学習の機会を届けようと、文化庁では現在のICT教材を作成中です。その動画の一部を、今回初公開していただきました。この動画は、4月にインターネット上で公開予定とのこと。楽しみにしています!!



日本語学習者の日本語スピーチ発表

日本語教室の感想、将来への思いなどを、スピーチしてくれました。

日本での生活で、一番困っていたのはコミュニケーションが取れないということだった、クラマエさん。大垣に日本語教室があることを知って、とてもうれしかったそうです。



▲クラマエ エイゾウさん
(ブラジル出身)



▲イサツグ マルクス
ビニシウスさん
(ブラジル出身)

「日本語教室はとても楽しかったが、宿題があり、次の勉強の箇所を教えてもらえると、予習ができてもっと勉強できる」と、とても前向きな発言でした。



▲フェルナンデス ランザ
エリキさん
(ブラジル出身)

「会社に通訳がいるけれど、簡単なことは通訳を介さずに、自分で伝えられるようになりたいので、日本語教室に通った」という、フェルナンデスさん。自分の言葉で伝えることは大切ですね。



▲ファン ホン フォンさん
(ベトナム出身)

会社で「フォンさん、これほかって!!」と言われて、「ほかる」の意味が分からなかった。辞書にものっていなかった。マンツーマンのボランティアさんに聞いたら、「ほかる」は「捨てる」の意味の方言だと教えてもらったエピソードを話してくれました。

また、もっと日本語を勉強して、ベトナム語の医療通訳になって、日本語に困っているベトナム人を支えたいという将来の夢も話してくれました。

大垣国際交流協会の取組紹介・今後の課題

大垣市の外国人数の背景や日本語学習支援を始めた背景、そして当協会の取組について紹介しました。大垣の特徴として、市民ボランティアが支援者となる「マンツーマン方式の日本語学習支援」そして日本語教師が指導をする「日本語教室」を行い、日本語がゼロレベルの人から日常生活の日本語をもっと学びたい人まで、支援を行っています。

しかし、課題もあり、「1.学習ニーズの多様化への対応、2.学習希望者の増に追いつかない支援体制、3.国の体制整備の中で、地域の日本語学習、特にボランティアの方が中心になってやっている場合に、どこまで向き合っていくのか」、という3つの課題があることを説明し、「地域の日本語教室がどこまで担っていけばいいのか」という課題提起をしました。



パネルディスカッション～大垣地域の日本語教育の課題と今後の方向性～



▲柏谷 涼介氏
セントラルジャパン
日本語学校 主任教員

妄想かもしれませんが、例えば教材とかインターネットに繋がったパソコンなどがあるリソースセンターのようなものがあるといいと思います。そこには学習支援者ももちろんいて、他には例えば話題が書いてあるカードや壁にいろいろな写真があって、そういうものを媒介にコミュニケーションする、その交流の課程で言葉を覚えていくような施設があるといいと思います。コミュニケーションの中で分からない部分があれば教材やインターネットで調べたりとか。また文法の説明などは、ゆくゆくはAIなどが学習者の母語でしてくれるようになると思います。このような形態であれば、多くの待機中の学習者も救えるし、支援者も「教えること」から解放されるのではないのでしょうか。



▲米勢 治子氏
東海日本語ネットワーク
副代表

国は外国人の受入へと大きく舵をきったわけです。その中で、日本語教育は、要の部分。地域日本語教育を担うのは地域しかない。地域とは基礎自治体。そこでやらなければ、その自治体の将来に影響していく。一刻も早い体制整備が求められている。

みなさんが、大垣市民として将来の大垣市をどうしていきたいのか、そのような視点で要望を出していくことが求められていると思います。



▲伊藤 かなな氏
岐阜協立大学
非常勤講師

生活の日本語クラスを担当した時に、約半年待ちに待って受講した人がいました。間くと、ようやく勉強できてよかった、という人がいました。日本語の学習を本当に渴望している人たちがいることを実感しました。そのためにも、受入れしている企業の中で何か日本語を学べる場があればよいと思いました。

外国人も自立をして地域で生活することが求められている。それは、ある程度日本語ができて、自分自身で行動ができる、地域の人と交流ができる、そのために日本語を学ぶ機会を設けている。生活者として生きていくためには、いつまでも通訳に頼ることは自立につながらないし、地域社会にとってもよくないこと。自分自身で隣近所と顔が見える関係を持つことを目指している。地域の摩擦などを解消できるようになっていければ、と思っています。



▲大里 誠治氏
美濃加茂市地域振興課
国際交流員
(ブラジル出身)

自分の思い込みも結構あって、自分の実現したいことを、その分野のことをよくわかっている人に相談して、本当にそれで正しいのか、それで自分の疑問がかなえられるのか、ということを確認しつつ準備をしたりすることが必要なのではないかと思います。学習者のニーズも本当にその人のニーズなのか、常に問い直しをしてもらうのがよいかと思います。



▲文化庁の北村祐人氏
にも急速ご参加いただきました

国際交流ボランティア感謝状贈呈

15年以上、国際交流ボランティアとして登録をされている方々へ感謝状を贈呈しました。

15年以上の長きに渡り、海外からの受入時のホームステイや日本文化紹介、通訳、また外国人市民の日本語支援などの事業活動にご協力いただきました。ありがとうございました。今後よろしくお願いいたします。

6名の皆さまに感謝状を贈呈しました

豊野 フサエ様 高木 一己様 稲川 裕子様
桑原 智子様 時田 さがみ様 染宮 清様

交流会



▲左から高木一己様、日比理事長、豊野フサエ様



親子で楽しむアメリカとイギリスの文化

10/22(火・祝)スイトピアセンター スイトピアホール

前号では、7月に実施した「親子で楽しむ世界の子どものおそび」を紹介しましたが、10月には「親子で楽しむアメリカとイギリスの文化」を実施し、13組37人が参加しました。(一般財団法人 自治総合センター コミュニティ助成事業)

10月の風物詩「ハロウィーン」とハロウィーン後の一大イベント「クリスマス」をテーマにしました。



アメリカのハロウィーン

アメリカ出身のライアン・テラー・ファークさん(大垣市在住の英会話講師)を講師に、ハロウィーンをテーマの読み聞かせ、鬼ごっこ、ボール入れ、そしてトリックオアトリートの遊びをしました。



▲ハロウィーンのおはなし



▲ハロウィーンの絵本、英語で読み聞かせ



▲ハロウィーンの衣装で記念写真



ハロウィーンの由来

ハロウィーンはヨーロッパ古代のケルト民族が発祥で、10月31日はケルト民族にとっては、一年の終わり。一年の終わりの秋の収穫を祝い、悪霊を追い出すお祭りでした。

高校生米国オレゴン州への研修派遣事業では、ビーバートン市のジェンソンさん家族が、毎年ホームパーティーを開いてくださいます。10月中旬ということもあり、このようなハロウィーンの飾り付けがされています。また、かぼちゃをくり抜いた中にろうそくを立て、ジャックオーランタンを作ります。



イギリスのクリスマス

北アイルランド出身のキャサリン・オーアさん(岐阜県国際交流センター国際交流員)を講師に「アドベントカレンダー」作り、イギリス流の子どものクリスマスの迎え方を紹介しました。

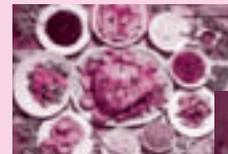


▲キャサリンさんによる紹介



▲親子で協力してカレンダー作り

イギリスでも、親から子どもにクリスマスプレゼントが贈られます。一般的に、12月24日にクリスマスツリーの下にプレゼントが置かれ、25日に子どもたちが開封します。その他、家族で囲むおいしい料理も子どもたちが楽しみにしていることのひとつです。



アドベントカレンダーとは?

アドベント(Advent)とは、イエス・キリストの誕生を待ち望む期間のことで、「到来」を意味するラテン語のAdventusからきています。そして、待望のイエス・キリストの誕生日(クリスマス)までをカウントするのがアドベントカレンダーです。アドベントカレンダーには楽しい仕掛けがあり、日付のところが開けられるようになっていて、中にお菓子やおもちゃが入っています。



参加者の感想

- ・カレンダー作りが楽しかった。
- ・小学生が外国の文化に興味を持つアクティビティばかりで参加してすごくよかったです。
- ・アメリカとイギリスについて文化を知ることができとてもよかったです。アドベントカレンダー、毎年作りたいです。



令和元年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣事業》

- ＊中国・邯鄲市小・中学生研修派遣
(7/28～8/2(6日間)) 小・中学生6人、引率者3人
- ＊ベルギー・ナミュール市中学生研修派遣
(9/21～9/28(8日間)) 中学生8人、引率者3人
- ＊アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣
(10/10～10/18(9日間)) 高校生10人、引率者3人

《フレンドリーシティ受入事業》

- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入
(8/23～8/27(5日間)) 小・中学生15人、引率者2人

《地域国際交流事業》

- ＊多文化紹介講座
 - ・親子で楽しむ世界の子どものあそび(7/28) 参加者：16人
 - ・親子で楽しむアメリカとイギリスの文化(10/22) 参加者：37人
 - ・ベトナムとリトアニアの文化(2/24) 参加者：17人



▲ベトナムとリトアニアの文化

《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ＊日本語指導ボランティア講座(文化庁受託事業)
 - 入門編1期(7/14～9/8【全5回】) 受講者：31人
 - 入門編2期(11/10～12/13【全5回】) 受講者：16人
 - ブラッシュアップ編(1/12～2/2【全4回】) 受講者：15人

《民間国際交流助成事業》

- ＊助成事業：5団体5事業

《外国語基礎会話講座》

- ＊ポルトガル語基礎会話講座(10/20～12/22【全8回】)
講師：進藤 明美氏(ポルトガル語通訳) 受講者：20人
- ＊英語基礎会話講座(10/26～12/21【全8回】)
講師：加藤 ミリアム氏(英会話講師) 受講者：11人
- ＊中国語基礎会話講座(1/20～2/17【全5回】)
講師：李 敏氏(中国語通訳) 受講者：12人
- ＊韓国語基礎会話講座(1/23～2/20【全5回】)
講師：兪 瑞香氏(韓国語講師) 受講者：4人

《海外事情紹介事業》

- ＊海外研修派遣団員報告会
 - ・小中学生派遣(11/16) 参加者：46人
 - ・高校生派遣(12/14) 参加者：31人



▲海外研修派遣団員報告会

《国際相互理解事業》

- ＊事業記録写真等の展示
(サイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ＊広報事業
 - ・機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
 - ・ホームページによる広報：随時更新中

【多文化共生事業】

《外国人市民支援事業》

- ＊外国人市民の日本語学習支援
 - ・マンツーマン方式の日本語学習支援(毎日(休館日を除く))
学習者：144人、ボランティア：102人(2月末現在)
 - ・外国人市民のための日本語教室
 - 基礎クラス(5/12～2/2【全36回(3期)】)〈文化庁受託事業〉
受講者：計61人
 - 会話クラス(8/4～10/6【全8回】)〈文化庁受託事業〉
受講者数：25人
 - 日本語能力試験(JLPT) N3 受験対策クラス
(6/23～11/24【全15回】) 受講者：10人



▲日本語教室(会話クラス、ごみ出し分別)

- ・にほんごおしゃべりルーム(毎週日曜日)
- ・地域日本語教育シンポジウムin大垣(2/9)
〈文化庁受託事業〉 参加者：85人
- ・就学前外国人児童日本語等指導事業
〈大垣市受託事業〉(11～3月) 参加者：38人
- ＊外国人市民のための相談窓口の設置
 - ・相談窓口(ポルトガル語、中国語、英語)
 - ・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための行事・講座
 - ・外国人市民のための日本文化講座
和服体験(年17回実施) 参加者：55人
 - ・神輿体験 in十万石まつり(10/13) 参加者：22人
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣(学校法人HIRO学園への派遣)
(毎週火・金曜日)

令和2年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市小・中学生研修派遣(オーストラリア・グレンアイラ市)(8月)
- ＊大垣市中学生研修派遣(ドイツ・シュツットガルト市)(9月)
- ＊大垣市高校生研修派遣(アメリカ・ビーバートン、ユージーン市)(10月)
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入(8月)
- ＊ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入(10月)
- ＊オーストラリア・グレンアイラ市学生訪問団受入(12月)
- ＊ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入(2月)

【地域国際交流事業】

- ＊日本文化紹介講座(8月、1月)

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語指導ボランティア講座(7月、10月、1月)
- ＊ボランティアの集い(3月)

【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座(10月)
- ＊フランス語基礎会話講座(10月)
- ＊韓国語基礎会話講座(1月)
- ＊ドイツ語基礎会話講座(1月)

【海外事情紹介事業】

- ＊海外研修派遣団員報告会
(小中学生:11月、高校生:12月)

【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成(随時)

【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示<海外紹介、事業紹介>(随時)
- ＊機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
- ＊ホームページによる広報(<http://www.i-oiea.jp>)

【多文化共生事業】

- ＊外国人市民の日本語学習支援
 - ・マンツーマン方式日本語学習支援(通年)
 - ・にほんごおしゃべりルーム(通年)
 - ・外国人市民のための日本語教室(5月、8月、11月開講)
 - ・地域日本語教育シンポジウム(2月)
 - ・就学前外国人児童日本語等指導事業<大垣市受託事業>(11~3月)
- ＊相談窓口開設
 - ・相談窓口<ポルトガル語、中国語、英語>(通年)
 - ・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための和服体験(通年)
- ＊外国人市民のための浴衣体験(8月)
- ＊外国人市民のためのお神輿体験(10月)
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣(通年)

イ シ フ オ × ー シ ョ ン

<ボランティア募集>

公益財団法人大垣国際交流協会(OIEA)では、ホームステイ、日本文化紹介、通訳・翻訳、日本語指導、企画・運営などの各ボランティアを随時募集しております。

<賛助会員募集>

OIEAでは国際交流に関心のある方、又OIEAの設立趣旨や活動をご理解のうえ、支援していただける賛助会員制度を設けています。個人会員と団体(法人)会員があり、ご賛同いただける方を広く募集しています。
年会費(1口)は、個人会員:3,000円、団体会員:10,000円です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

編集後記

今日も国内で、新型コロナウイルスによる肺炎が拡大するニュースが報道されています。世界中が新型コロナウイルスをどう防ぐか、対策が検討され、各地で、イベント等の中止、縮小がされている現在、令和2年度の、OIEA国際交流事業にも影響を及ぼすことが心配されます。一刻も早い終息が待たれます。

89号の表紙に、令和元年度のOIEA国際交流事業の主な写真を掲載しました。当協会の事業が、国際交流の輪を広げていることが評価されています。

当協会が、今後の課題として、外国人との共生社会として、新たな労働力の確保、日本語教育推進を考える「日本語教育シンポジウムin大垣」が開催されました。皆様のご意見をお聞かせください。また、当日、長年ボランティア活動にご協力いただきました6名の方への感謝状が贈呈されました。

令和2年度も、各事業計画が無事に実施され、「フレンドリー」が編集できることを願っています。

【みなさまからの情報をお待ちしております】

個人や団体などの国際交流活動、海外での異文化体験などの情報等ありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

大垣市内在住外国人の国籍別人数表

総数:5,681人(前号(令和元年9月号)との比較(273人増) ※令和2年2月末現在

	人数	9月号との比較		人数	9月号との比較		人数	9月号との比較
ブラジル	2,547	121	台湾	10	1	オーストラリア	2	0
中国	1,244	21	モンゴル	8	-1	ドミニカ共和国	2	0
ベトナム	478	73	ボリビア	7	-1	モルドバ	2	0
フィリピン	448	23	エジプト	7	0	パラグアイ	2	0
韓国又は朝鮮	283	-4	イタリア	6	0	スペイン	2	2
ペルー	141	-7	マレーシア	5	-2	ウクライナ	2	0
ネパール	115	-8	トルコ	5	0	ノルウェー	1	1
インドネシア	80	13	アルゼンチン	4	2	チリ	1	1
カンボジア	44	12	カナダ	4	1	ガーナ	1	0
アメリカ合衆国	38	-2	ルーマニア	4	0	オランダ	1	0
ミャンマー	37	11	シンガポール	4	0	ニュージーランド	1	0
タイ	34	2	イギリス	4	0	スウェーデン	1	0
スリランカ	32	2	コロンビア	3	0	ジャマイカ	1	0
パキスタン	24	1	コートジボワール	3	0	無国籍	5	2
バングラデシュ	17	6	ラオス	3	0	総人口に占める割合		3.5%
インド	16	2	メキシコ	2	1			



フレンドリー No.89

編集/公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<http://www.i-oiea.jp/> [E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp

発行/2020年3月

印刷/サンメッセ株式会社